



平成27年度  
高速道路調査会 研究発表会



高速道路の料金制度に関する研究



公益財団法人 高速道路調査会  
研究部 中村 篤

# 本日の発表

1. 研究の概要
2. 導入期の有料道路制度
3. 現在の有料道路制度
4. 諸外国の有料道路制度 ～無料から有料への動き～
5. 将来の有料道路制度
6. 今後の研究について

## 1. 研究の概要

# 研究の目的

---

高速道路の料金制度の歴史・課題について整理



高速道路ネットワークの有効活用に資する  
中長期的な料金制度（体系・水準など）を  
多角的な観点から検討



《目的》

あるべき料金制度の基本的な考え方を整理

## 1. 研究の概要

# 委員会メンバー

委員長	杉山 雅洋	早稲田大学 名誉教授
委員	家田 仁	東京大学・政策研究大学院大学 教授
委員	石田 東生	筑波大学大学院システム情報工学研究科 教授
委員	太田 和博	専修大学商学部 教授
委員	竹内 健蔵	東京女子大学現代教養学部 教授
委員	橘 洋介	八戸学院大学ビジネス学部 専任講師
委員	根本 敏則	一橋大学大学院商学研究科 教授

(敬称略、50音順)

- 有識者委員 7名 (上表)
- 会社委員 12名  
(道路会社6社など)

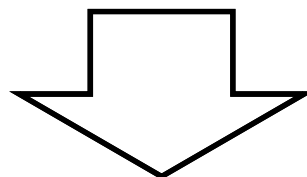
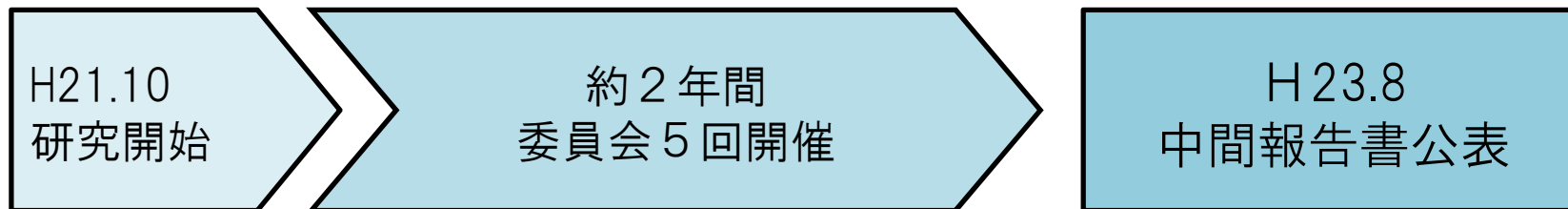
計 19名

# 1. 研究の概要

## これまでの経緯

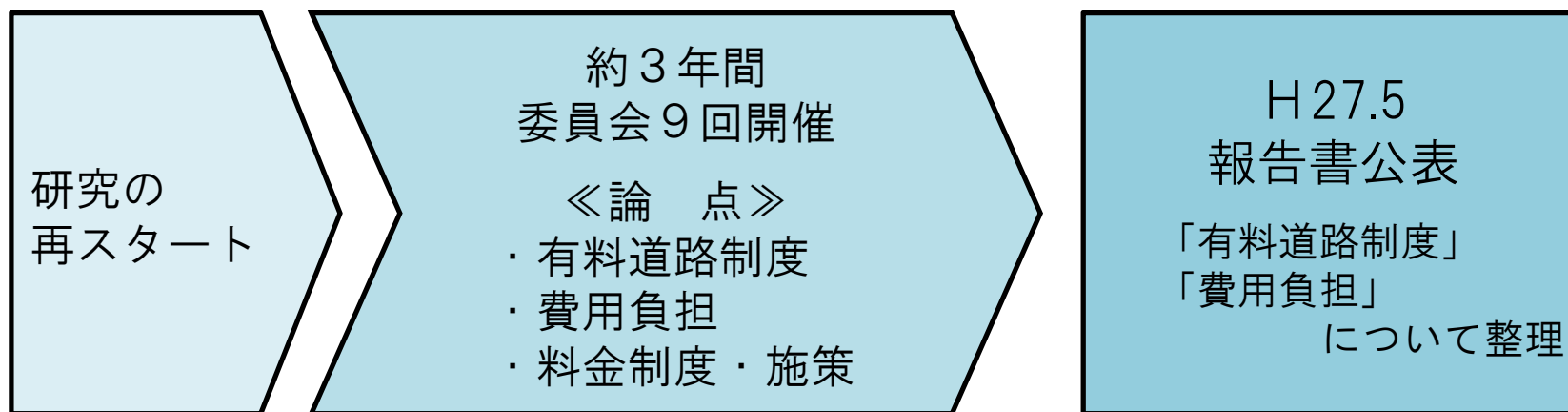
### 《中間整理》

「高速道路の料金制度のあり方について」



### 《今回公表》

「有料道路制度と負担のあり方について」



# 本日の発表

1. 研究の概要

**2. 導入期の有料道路制度**

3. 現在の有料道路制度

4. 諸外国の有料道路制度 ～無料から有料への動き～

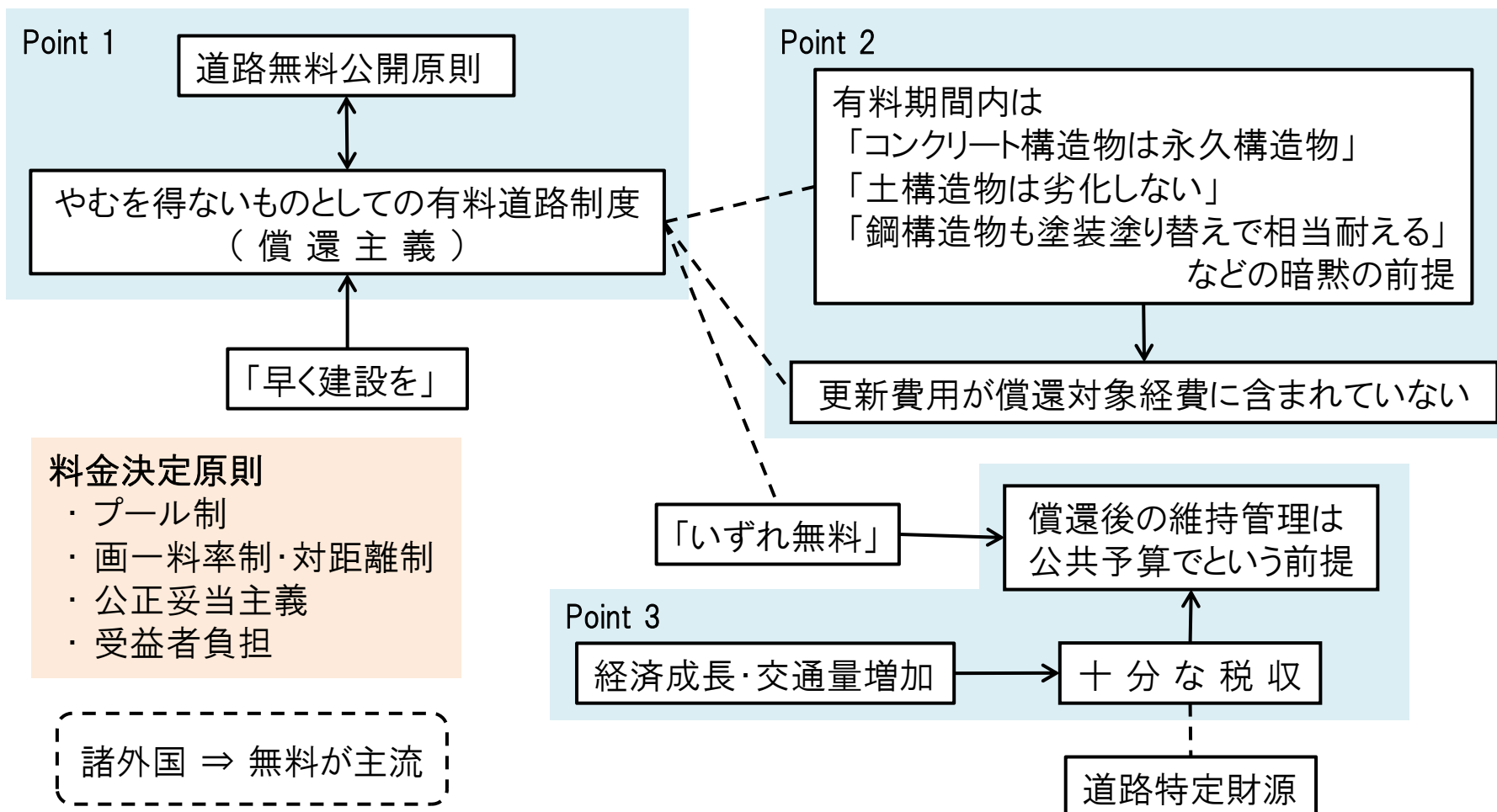
5. 将来の有料道路制度

6. 今後の研究について

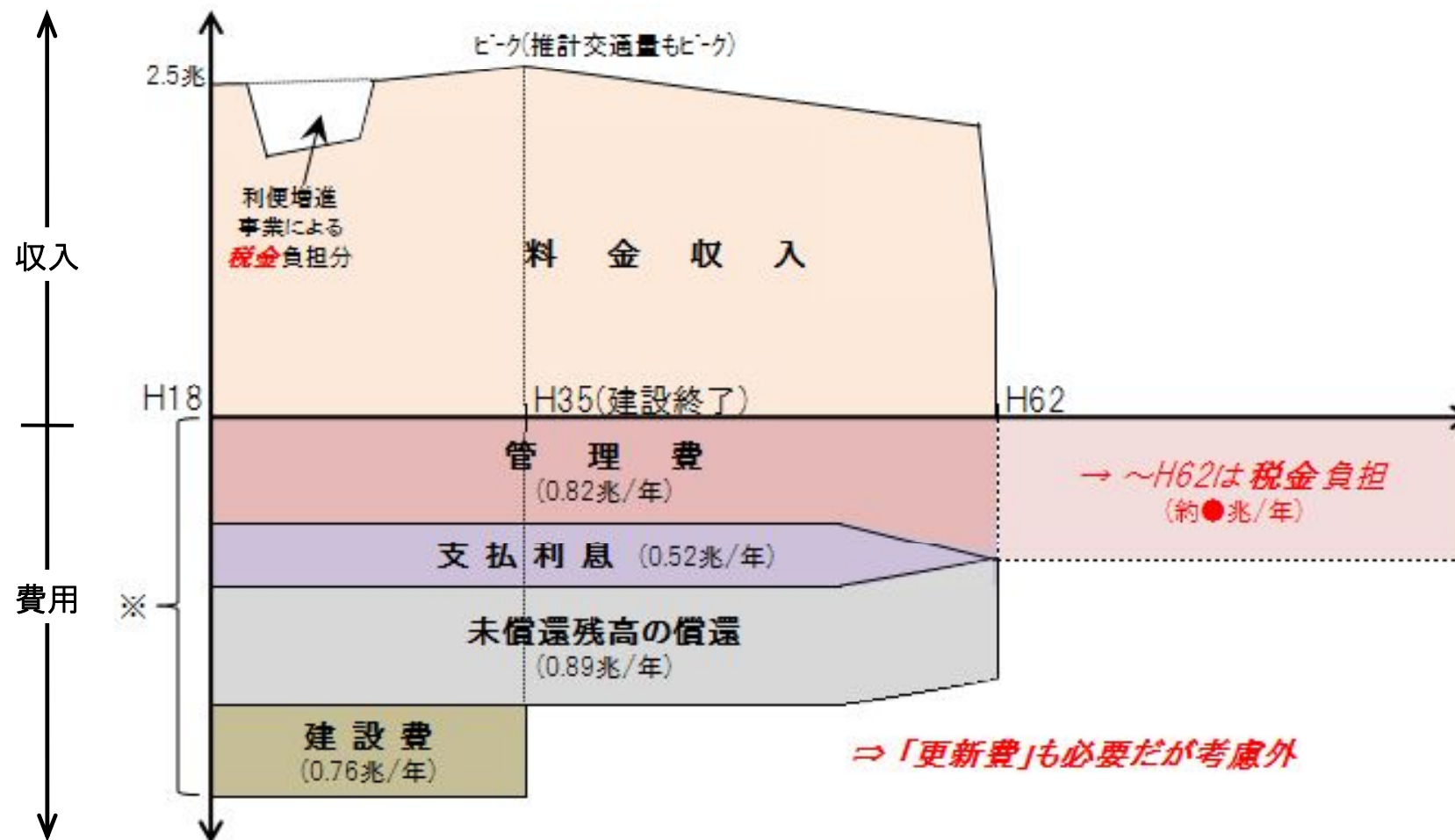
## 2. 導入期の有料道路制度 整理① ～過去～

過去

有料道路制度の基本的考え方(有料道路制度導入期)



## 2. 導入期の有料道路制度 償還制度（H26.5法改正前）



※ 実際は毎年度、金額は変動するが、簡略化のため平準化



# 本日の発表

1. 研究の概要

2. 導入期の有料道路制度

**3. 現在の有料道路制度**

4. 諸外国の有料道路制度 ～無料から有料への動き～

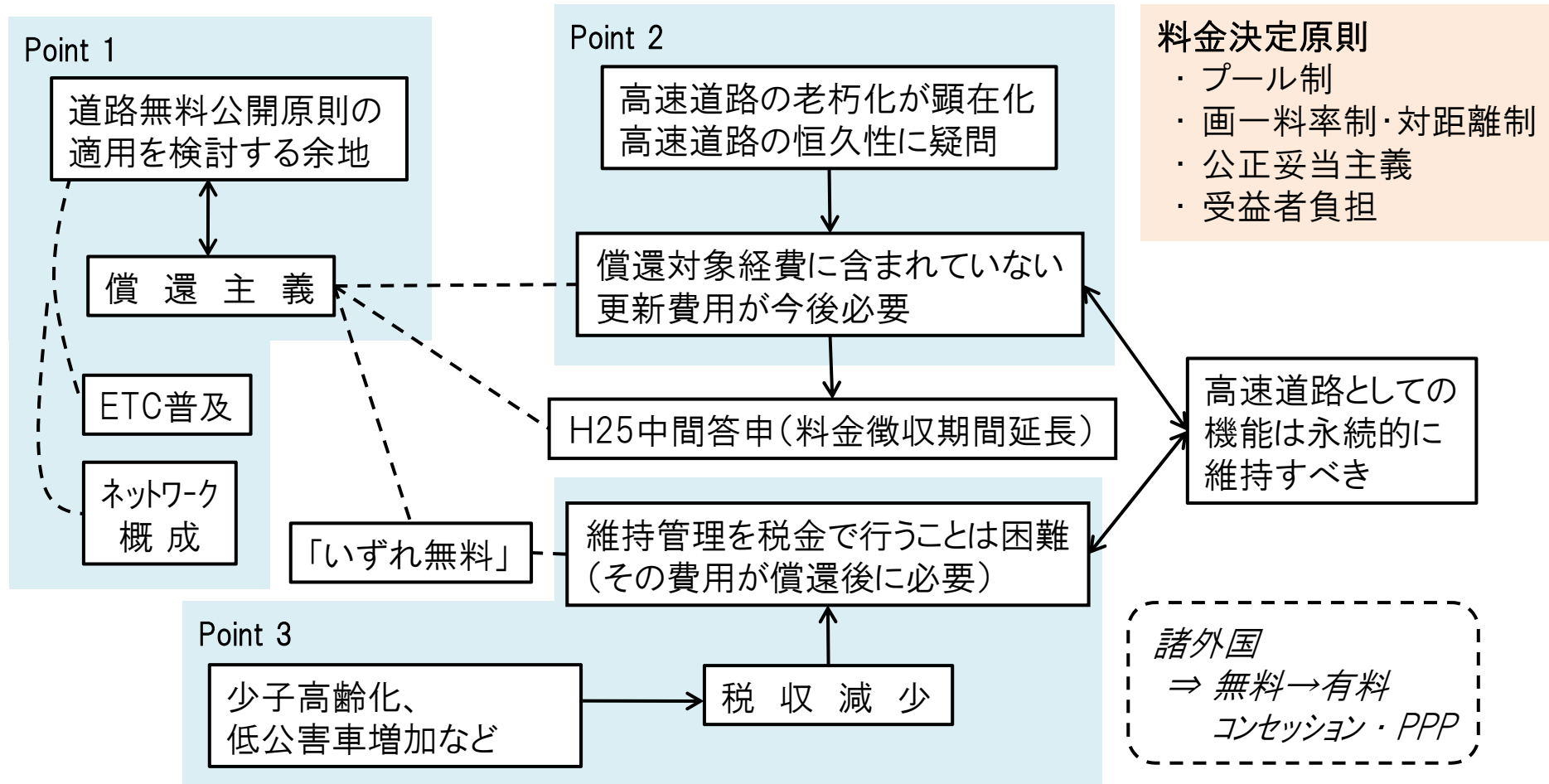
5. 将来の有料道路制度

6. 今後の研究について

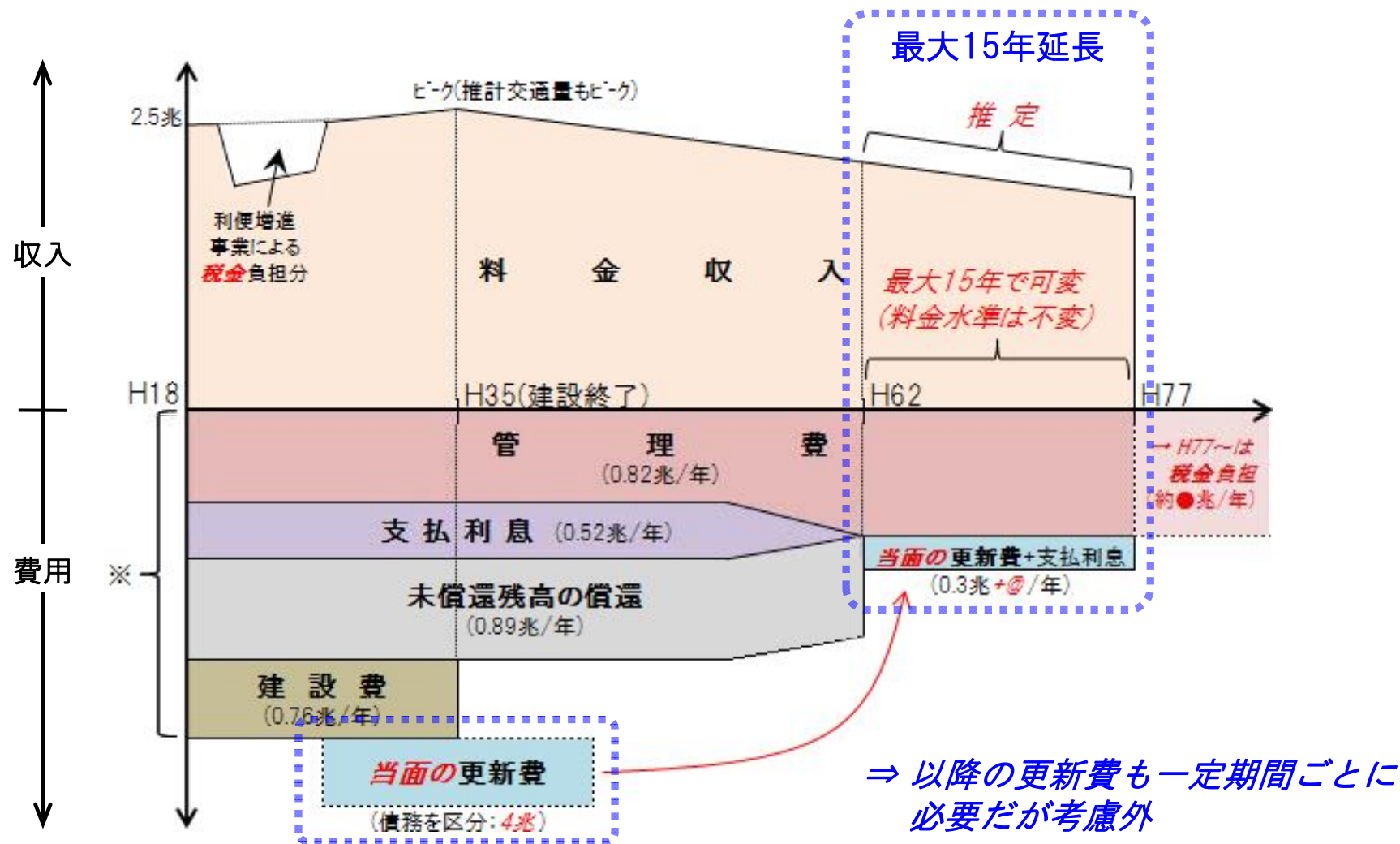
### 3. 現在の有料道路制度 整理② ～現在～

現在

時代背景の変化と有料道路制度



### 3. 現在の有料道路制度 現行償還制度（H26.5法改正後）



※ 実際は毎年度、金額は変動するが、簡略化のため平準化

# 本日の発表

1. 研究の概要

2. 導入期の有料道路制度

3. 現在の有料道路制度

4. 諸外国の有料道路制度 ~無料から有料への動き~

5. 将来の有料道路制度

6. 今後の研究について

## 4. 諸外国の有料道路制度 ~無料から有料への動き~

# 道路の有料化の背景

世界的に…  
(特に先進国)

高齢化・低公害車増加 ⇒ (燃料)税収減少  
インフラ老朽化など ⇒ コスト増加

財源不足により公共予算による  
道路インフラ整備・維持管理・  
大規模更新や修繕が困難

課金技術の進展

道路の有料化の進展  
(利用者負担)

## 4. 諸外国の有料道路制度 ～無料から有料への動き～ アメリカ、ドイツ、フランス

### アメリカ

- ① オレゴン州で成立した州法（2013年7月）  
⇒ 燃料税 → 対距離課金（+税還付）
- ② リーズン財団の提言報告書『Interstate2.0』（2013年公表）  
⇒ 「老朽化するインターステート高速道路の維持、更新は、現状の燃料税によっては実現不可能であり、有料化（完全電子的対距離課金）によって実現が可能」

### ドイツ

- ① 重量貨物車課金（GPS対距離課金）  
⇒ 対象道路、対象車両を拡大
- ② 乗用車課金（ビニエット方式）  
⇒ アウトバーンと連邦道路について、乗用車課金を行う法案が議会を通過、ただし実施時期については未定

### フランス

（失敗例）

- ✓ エコ・タクス（重量貨物車に対するGPS対距離課金）  
⇒ 全ての国道などについて、3.5トン以上の車両を対象  
⇒ 2014年当初から導入予定も、運輸業界や農民の反対で無期限延期

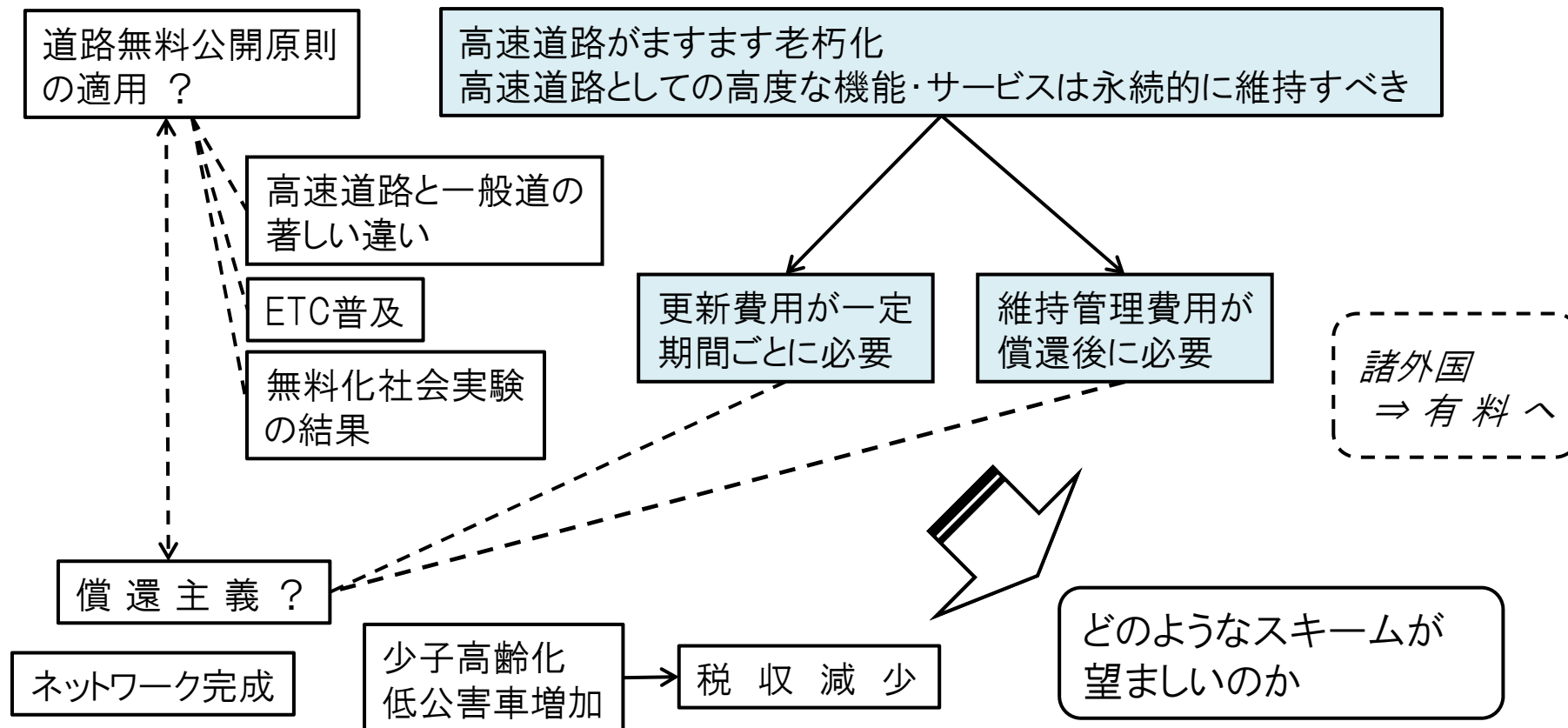
# 本日の発表

1. 研究の概要
2. 導入期の有料道路制度
3. 現在の有料道路制度
4. 諸外国の有料道路制度 ～無料から有料への動き～
- 5. 将来の有料道路制度**
6. 今後の研究について

# 5. 将来の有料道路制度 整理③ ～将来～

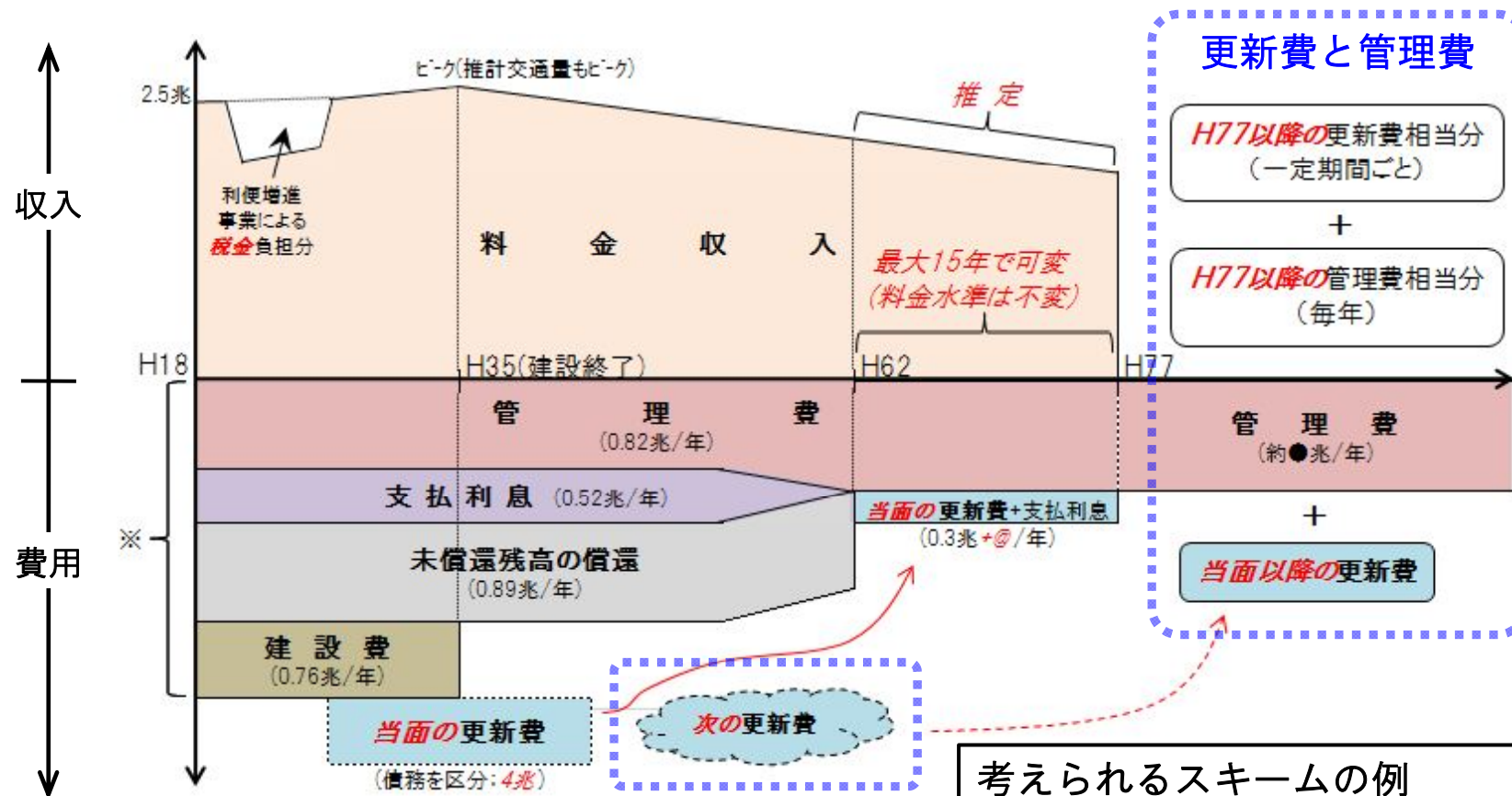
将来

将来を見据えた有料道路制度の方向性





# 5. 将来の有料道路制度 現行の償還満了後



ソーシャル・アクセプタンス(社会的受容性)が重要

- 考えられるスキームの例
- 【無料化】
    - ・ 必要な費用は全て税負担
  - 【有料継続】
    - ・ 更新の都度、償還期間を延長
    - ・ 別の制度で永続的に料金を徴収
    - ・ 税金を一部投入

## 5. 将来の有料道路制度

# 有料道路制度に係る検討事項

---

- **税金（国費）による対応**  
⇒ どのような前提で高速道路に税金を投入することが適切なのか？
- **一体的なネットワークという考え方**  
⇒ 高速道路を一体のものとして制度を考える必要があるのではないか？
- **ETCの活用**  
⇒ 柔軟な料金制度への可能性を開く
- **資産のマネジメントの必要性**  
⇒ 高速道路を資産として永続的に維持管理する必要がある
- **不確定性の考慮**  
⇒ 将来の老朽化や劣化、災害、気候変動、技術革新などの不確定要素を考慮した制度
- **ソーシャル・アクセプタンス（社会的受容性）の重要性**  
⇒ 社会の合意を得ることができる有料道路制度であるべき

# 本日の発表

1. 研究の概要
2. 導入期の有料道路制度
3. 現在の有料道路制度
4. 諸外国の有料道路制度 ～無料から有料への動き～
5. 将来の有料道路制度
6. 今後の研究について

## 6. 今後の研究について

論 点

有料道路制度

費用負担

今回の報告書で検討・整理

料金制度・施策

今後、検討

最終整理

〔具体的な調査研究テーマの例〕

- ✓ 目的に応じた料金制度・施策の整理（インフラ課金、外部費用課金など）
- ✓ 現行の料金体系・水準や車種区分などの根本的な部分について再検討すべき点
- ✓ 新たな課金技術によって実現できること
- ✓ 料金施策による交通需要管理
- ✓ 事業主体が自主的に料金施策を行い得る枠組み
- ✓ 社会に受容されるような打ち出し方（ソーシャル・アクセプタンスの観点）

# 本日のまとめ

---

## ① 有料道路制度の基本的考え方（導入期）

- ⇒ 高速道路を整備推進するための特別措置（道路無料公開原則に反する）
- ⇒ 償還満了後は無料開放
- ⇒ 償還満了後の管理費は税金で賄う

## ② 時代背景の変化と高速道路

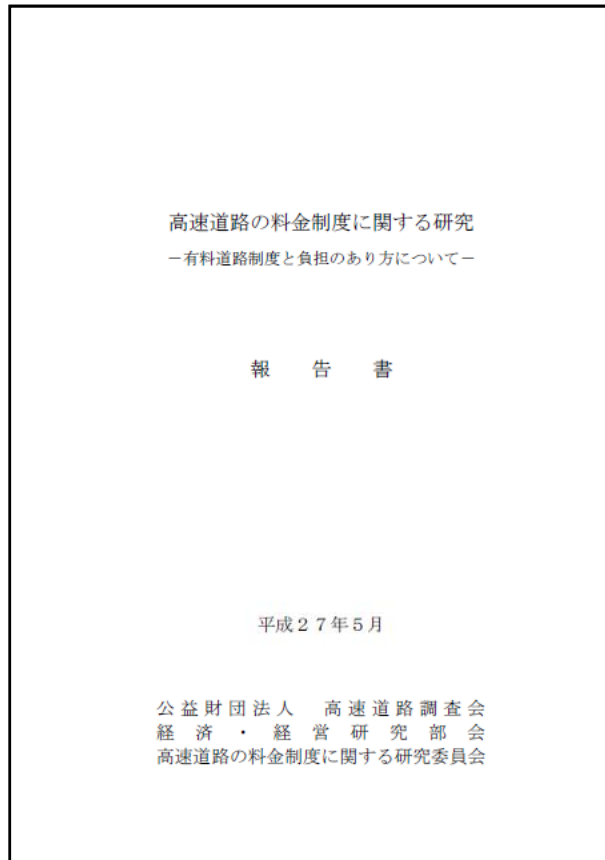
- ⇒ ETCの普及、ネットワークの概成により高度な機能とサービスを提供
- ⇒ 償還対象経費に含まれていない大規模更新の必要性
- ⇒ 維持管理費を税収で賄うことは困難
- ⇒ 道路無料公開原則の適用を検討する余地（有料の道路の可能性）

## ③ 将来の有料道路制度

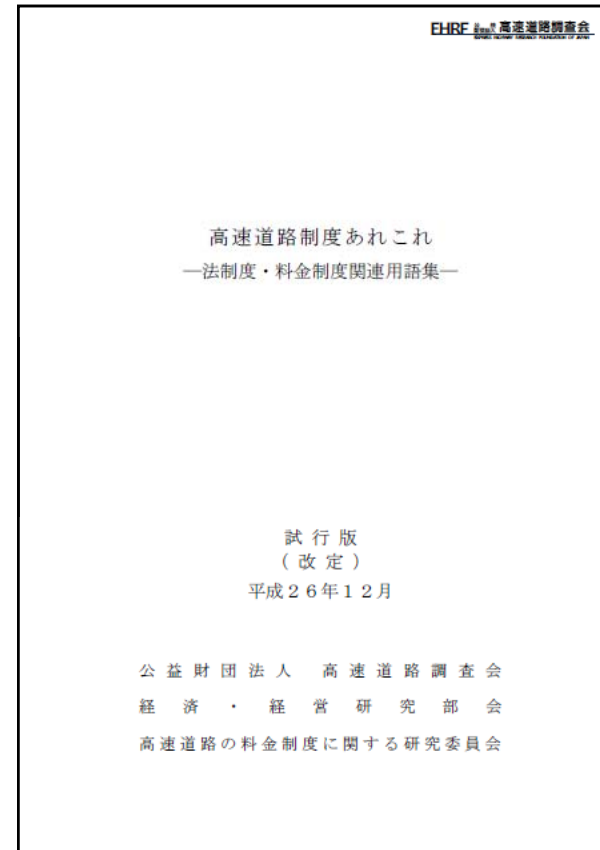
- ⇒ 維持管理費と更新費の負担をどう考えるのか（税金負担、有料継続など）
- ⇒ 諸外国（特に先進国）では無料から有料への傾向が見られる
- ⇒ ソーシャル・アクセプタンス（社会的受容性）が重要

# 報告書及び関連用語集

報告書  
高速道路の料金制度に関する研究  
-有料道路制度と負担のあり方について-



用語集  
高速道路制度あれこれ  
-法制度・料金制度関連用語集-



専門的になりがちな高速道路の諸制度に  
関する各種用語を説明(用語数:約90語)

# ご 清 聴 ありがとうございました

本日よりご紹介した、当委員会の2つの報告書と『高速道路あれこれ』は、当法人の下記ウェブサイトに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

<http://www.express-highway.or.jp/jigyo/kenkyu/report/2015/>